

下関市民の外国語学習の現状と課題について — 三つの言語（英・中・韓）を中心に —

呉香善・浅野雅樹・クリステン サリバン

目次

- I はじめに
- II 下関地域の外国語市民講座などの状況
 - 1. 英語
 - 2. 中国語
 - 3. 韓国語
- III アンケート調査分析
 - 1. 回答者の属性に関する分析結果
 - 2. 学習動機に関する分析結果
 - 3. 学習方法に関する分析結果
 - 4. 学習環境に関する分析結果
 - 5. 市民講座への要望に関する分析結果
- IV 調査結果に対する考察及び今後の課題について
 - 1. 英語
 - 2. 中国語
 - 3. 韓国語
- V おわりに

I はじめに

下関地域においては、外国語¹⁾学習に関する一般市民向けの市民講座、公開シンポジウム、国際交流会、外国語資格検定試験などが定期的に行われており、市民の外国語の学習環境はある程度整っていると言える。筆者の本務校である下関市立大学付属の地域共創センターからも、ほぼ毎年いくつかの外国語講座を開講しており、一定数の受講者が集まっている。本稿の3名の筆者は皆、これらの外国語講座などの担当経験を持つ下関市立大学の教員である。平素は大学の授業を担当し、大学生の外国語学習者を対象とした外国語教育に従事しているため、学生の学習状況については一定の理解を得ている。ただ、一方で一般市民の外国語学習者に対しては不透明な部分が多いという共通認識を持っている。したがって、一般市民向けの外国語講座を開講し担当する過程において、これらが果たして市民の外国語学習のニーズに合っているのか、という疑問を常に抱いていた。担当教員の側から見ると問題は大きく分けて二点ある。一つは市民講座に関する、開講時期や時間帯、また開講回数、開講場所等の講座の企画についての問題である。二点目は学習者の学習動機や語学レベルに応じて、市民講座という教育の場において、実際どのような教授方法を取り入れるのが理想的なのかという外国語教育の内容の問題である。

本研究は、前述したこれらの問題点を明確にした上で、今後下関地域において、市民講座等の一般市民向けの外国語教育がどのように提供されるべきなのかという課題について、理解を得ることを目的とするものである。

II 下関地域の外国語市民講座などの状況（下関市報最近5年の調査結果）

本研究では、まず現在下関地域において、市内のどの地域で、どのくらいの数の市民向けの外国語教育サービスが提供されているのかということを確認にするという目的で、主に下関市報²⁾に依拠して調査した。以下、英・中・韓に分けてその調査結果を示す。

1. 英語

英語市民講座（2008年～2012年）

講座名	場所／主催	内容	受講料	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
勤労婦人センターまつり「楽しい英会話」	勤労婦人センター・フォンテ山の田	楽しい英会話（体験学習）	無料	○				
ボランティア通訳研修会	下関市民活動センター／国際課	観光施設を題材に通訳を実践（単発講座）	無料	○	○	○※	○※	○
フォンテやまのた文化講座「楽しい英会話」	勤労婦人センター・フォンテ山の田	英会話	有料	○	○	○		
下関アクティブセンターの文化講座「英会話」	下関アクティブセンター	英会話	有料	○				
ユネスコ英会話教室	勤労福祉会館・西部公民館／ユネスコ下関	入門、初級、中級、上級	有料	○	○	○	○	○
梅光学院生涯学習センターアルス梅光の各種英語講座	梅光学院大学／アルス梅光	「はじめての英語」、「シニア・初級」等	有料	○	○※	○※	○※	○※
市立大学の各種英語公開講座	下関市立大学／地域共創センター	英文学観賞、英語読書など	無料 有料	○※	○	○		
「英会話」無料体験講座	ユーバル下関	英会話の体験学習	無料		○			
ユネスコ歌のクラス	生涯学習プラザ	誰もが聞いたことのある、英語の歌	有料			○	○	○
ユーバル下関文化講座	ユーバル下関	やさしい英会話	有料				○	
アブニールの輝きセミナー 海外旅行に役立つ簡単英会話	アブニール菊川ふれあい会館／菊川教育支所	英会話単発講座	無料				○	
悠友大学「はじめての英語」	豊北生涯学習センター／豊北教育支所	あいさつ等、英会話の基礎（単発講座）	無料					○
ドリームシップの講座カラオケでポピュラーソング(英語)	ドリームシップ／生涯学習課	ポピュラーソングをカラオケで歌唱指導	有料					○

※市報には掲載されていないが、開講されている講座。

その他（2008年～2012年）

講座名	場所／主催	内容	受講料	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
カナダフレンドシップ大使	カナダ、バンクーバー市、リッチモンド市／カナダ友好協会	カナダを訪問し、英語研修と文化、環境保護を学ぶ	有料	○	○	○	○	○
姉妹都市締結10周年記念ピッパバーグ市訪問団員	市役所国際課	サンフランシスコ観光（6日）	有料	○				
親子で英語と遊ぼう	ゆたか児童館	英語によるゲーム、歌	無料	○		○		
英語教育についての講演会	海峡メッセ下関国際会議場／MPI下関パートナー会	「どうなる!?日本の英語教育～英語が大好きな子供たち～」	有料		○			
親子で体験「こうすればうまくいく こどもと英語」	ドリームショップ／生涯学習課	講演	有料			○		
小学校英語指導講座	梅光学院大学／生涯学習課	4回	有料				○	○
カナダフレンドシップ大使(国内留学)	福岡市海の中道青少年の家／カナダ友好協会	英語合宿（3日）	有料					○
家庭教育推進事業 Enjoy English	勤労福祉会館	小学生と保護者8組（全5回）	無料					○

ここでは、市報の調査及びアンケート調査で把握できた下関地域で提供されている英語講座を紹介する。

中国語や韓国語と同様、市内大学のエクステンションセンターが提供している英語講座が複数ある。梅光学院大学の生涯学習センター「アルス梅光」では毎年複数の英語講座を有料で開いており、レベル別の講座を大学の専任教員または非常勤教員が担当している。東亜大学の「コミュニティクラブ東亜」では有料の講座を2つ開いており、下関市立大学でも市民大学や公開講座という形でほぼ毎年、有料または無料の講座を開いている。どちらの大学でもそれぞれの大学の教員が講座を担当している。

下関市では市役所の国際課が主催する中国語講座、韓国語講座があり、それぞれ姉妹都市の中国は青島市、韓国は釜山市から派遣された市の職員が講師を務めることになっている。しかし姉妹都市であるアメリカのピッツバーグ市からは市の職員が派遣されていないため、下関市国際課が主催する英語講座がないのが現状である。

中国語や韓国語と同じく、いわゆる民間の団体が提供している英語講座が毎年開かれている。これらの講座はユネスコやカナダ友好協会が提供している。ユネスコは、入門者から上級者まで複数のレベルに分けて週に1回、有料の講座を開き、市内外に住む一般のネイティブスピーカーに講師を依頼している。講座の中には英会話の他に、近年は英語の歌を歌う講座も開かれている。カナダ友好協会ではレベル別の英会話講座を提供している他、1週間程度のカナダ訪問（英語研修とホームステイ）と、近年は国内留学（英語合宿）を有料で実施している。

中国語や韓国語と違って、公民館または生涯学習センターで開講されている講座が英語の場合は圧倒的に多い。勤労福祉会館では5つの英語講座が有料で週1回または月1回程度、一般の外国人または日本人により開講されている。これらの講座情報は勤労福祉会館のホームページで紹介され、毎年継続的に開講されている。その他の公民館や生涯学習センターに関しては、ホームページなどのスムーズな情報伝達手段が整っていないため講座情報が分かりにくくなっているが、下関市勤労婦人センター（フォンテ山の田）や下関アクティブセンター（下関市勤労者総合福祉センター・長府）、下関市勤労少年ホーム（ユーパル下関・彦島）、アブニール菊川ふれあい会館、豊北生涯学習センター、川中公民館、川棚公民館で不定期に英語講座が開かれている。

中国語や韓国語と違う部分として市民グループが独自に開いている英語講座がいくつかある点があげられる。例えば、「土曜英語クラブ」は15年近くメンバーが週1で集まり、英語を自主的に学び合っている。また、「海峡倶楽部」は2002年の国際捕鯨委員会年次会議が下関市で開催されたことに伴い、下関市を訪れた外国人の街案内をサポートしようと設立された英語ボランティアクラブである。近年、市内で国際会議などの開催が少なく、本来の活動が減少しているが、小学校での英語指導、図書館での英語絵本の読み聞かせなど、自主的に活動の場を広げている。また、2013年2月からToastmasters（英語でスピーチすることを目標とする世界各地にある団体）の下関支部が設立され、メンバー自

ら英語学習・英語活動に取り組んでいる。

この他、下関市には英会話チェーン店のNOVAとイーオンの他に企業や個人経営の英会話教室や塾がある。

最後に、最近では教会主催の英語講座が見られるようになった。下関聖書教会は市内にある3か所のセンターでレベル別に英会話の授業を行い、末日聖徒イエス・キリスト教会では、ネイティブのボランティア宣教師が指導する英会話教室を無料でやっている。

語学講座や教室に関しては、中国語や韓国語に比べ英語の方が多いと言える。ただ、文化や異文化体験の講座やイベントに関しては、中国語や韓国語と比較するとほとんど実施されていない。ここ5年間で、市報に掲載された英語に関する講座は、「日本の英語教育事情」や「小学校の英語指導法講座」、「小中学生の英語弁論大会」、「親子の英語体験」など、教育関連や子供向けのものしかない。

2. 中国語

中国語市民講座（2008年～2012年）

講座名	場所/主催	内容	受講料	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
中国文化講座	カラトピア/ 下関市国際課	中国の歴史や文化、 簡単な中国語会話	無料	○	○			○
中国語講座	勤労福祉会館/ 日中友好協会	中国語基礎、初級、 中級	有料	○	○	○	○	○
アルス梅光「中国語を話そう! (発音スペシャル)」	梅光学院大学/梅光学院 生涯学習センター	中国語	有料	○※	○※	○※	○※	○※
かんたん中国語講座	カラトピア/ 下関市国際課	中国語	無料	○	○	○	○	○
下関市立大学「市民教養講座」	下関市立大学/ 地域共創センター	中国語会話中級	無料	○				
下関市立大学公開講座 「中国語講座(初級)」	下関市立大学/ 地域共創センター	初学者向け語学講座	有料		○	○		
下関市立大学公開講座 「中国語講座(中級)」	下関市立大学/ 地域共創センター	中級者向け語学講座	有料	○※	○	○		○
下関市・青島市友好都市締結 30周年記念講座	カラトピア/ 下関市国際課	中国の歴史や文化、 簡単な中国語会話	無料		○			

※市報には掲載されていないが、開講されている講座。

その他（2008年～2012年）

講座名	場所/主催	内容	受講料	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
下関市立大学「市民大学講座」	下関市立大学/ 地域共創センター	中国語学習法	無料		○			
青年青島派遣研修団員の募集	中国青島市/ 下関市国際課	友好都市締結30周 年の青島市で、交流 や企業視察など	有料		○			
山口県・山東省友好協定締結 30周年記念 県民の船参加者 募集	中国山東省(青島、曲阜、 泰安、済南)/ 下関市国際課	友好協定締結30周 年記念レセプション 参加、山東省の各所 旧跡を遊覧	有料					○
市立大学 市民大学公開講座 「中国語の仕組みをしよう」	下関市立大学/ 地域共創センター	中国語学概論	有料					○

英語や韓国語と比べると下関地域において開かれる中国語の講座などは少ないと言える。調査の結果、中国語の講座は市役所の国際課、日中友好協会、また市内の大学により提供されるものが中心であることがわかった。毎年定期的に行われている講座が多く、主に平日の昼間や夜間の時間帯において、一回の講座が90分であるものがほとんどである。講座の担当者は、市役所の国際課から提供されるものは、毎年中国の青島市から派遣される職員の方が主に担当し、その他の講座は、主に市内の大学の専任教員や非常勤講師により担当される。講座の内容は中国語の実用語学学習が中心であるが、レベルにより入門、初級、中級と分けている講座がほとんどである。また実用語学以外にも、中国に関する文化、文学、語学概論などの講座が開かれている。その他、不定期の開催ではあるが、市役所の国際課の主催で下関市と姉妹友好都市である青島市への派遣・訪問団の募集がされており、その参加者の中には日頃中国語を学習する市民が多いことが考えられる。その他、市内には個人経営の中国語教室がいくつかある。

3. 韓国語

韓国語市民講座（2008年～2012年）

講座名	場所／主催	内容	受講料	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
下関韓国教育院 「韓国語・韓国文化講座」	山口県韓国総合会館／ 韓国教育院	初級・中級・上級、 韓国文化など全12種	無料	○	○	○	○	○
ふれあい韓国語講座（初級）	勤労福祉会館／ 下関市日韓親善協会	初級	有料	○	○	○	○	○
韓国語講座	勤労福祉会館／ 下関市日韓親善協会	初級Ⅰ・Ⅱ、中級、上級	有料	○※	○※	○※	○※	○※
梅光学院生涯学習センター アルス梅光「韓国語」	梅光学院大学東駅キャン パス／アルス梅光	初級・中級Ⅰ・中級	有料	○	○※	○※	○※	○※
かんたん韓国語講座	勤労福祉会館など／ 国際課	入門・初級・中級	無料	○	○	○	○	○
韓国語講座	カラトピア（唐戸町）／ 国際課	中級（挨拶や旅行に 役立つ会話）	無料	○	○※	○※	○※	○※
韓国文化講座	カラトピア（唐戸町）／ 国際課	歴史や文化、簡単な 会話	無料	○				
ひとくち韓国語	海峡メッセ8F／下関市 広域日韓親善協会	入門	有料	○	○			
ハングル語入門教室	勤労福祉会館（幸町）／ 勤労福祉会館	入門	有料				○	○
下関市立大学 市民大学公開 講座（秋学期）	下関市立大学／ 地域共創センター	上級	有料					○
ユーパル下関文化講座／ 短期講座	ユーパル下関（彦島）／ ユーパル下関	初級・中級	有料		○	○		○
韓国語講座（初級・中級）	東亜大学／CCT東亜	初級・中級	有料					○※

※市報には掲載されていないが、開講されている講座。

その他（2008年～2012年）

講座名	場所/主催	内容	受講料	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
朝鮮通信使行列再現	唐戸周辺/市民文化課	行例や文化団体交流公演の手伝い	無料	○	○	○	○	○
韓国文化体験短期研修	韓国昌信大学/山口県日韓親善協会联合会、国際課	韓国語(入門・初級・中級)、文化講座、文化体験、交流会など	有料	○	○	○	○	○
朝鮮通信使シンポジウム	海峡メッセ/市民文化課	基調講演やパネルディスカッション	無料	○	○			
下関市立大学 コリアンスピーチ大会	下関市立大学/市国際交流センター	朗読、暗誦、弁論	無料	○	○	○※	○※	○※
市立大学「世界の厨房から」	下関市立大学厚生会館/下関市立大学	世界の料理紹介	無料	○	○	○	○	○
インターナショナル・デイ	梅大スタージェスホール/梅光学院大学	韓国語でのパフォーマンス披露	無料	○※	○	○	○	○
外国文化講座「サンデー・インターナショナル・トーク」	海峡メッセ下関4階	際交流員を迎えた環境問題の意見交換	有料	○				
リトルサンフェスタ	グリーンモール/商工復興課	韓国舞踊、チョゴリ試着、韓国料理の出店	有料	○※	○	○※	○※	○※
市立大学公開講座「韓国の企業経営20年史(1987～2007)」	下関市立大学/地域共創センター	韓国の企業経営20年史(1987～2006)	有料		○			
日韓交流野球大会	王司・西中国信用金庫総合グラウンド	野球交流	無料		○			
国際交流セミナー「留学生との異文化交流会」	梅光学院大学S-1教室/梅光学院大学	留学生との異文化交流会	有料		○			
2010年関釜航路の年オープニングセレモニー	シーモール下関/港湾局復興課	日韓のパフォーマンス、くすだま割り、抽選会	無料			○		
アブニールの輝きセミナー「韓国料理教室」	アブニール(菊川町)/菊川教育支所	初級・中級	有料			○		
下関未来大学	下関市立大学/地域共創センター	韓国と日本で見る韓流の視点	有料					○
楽しい韓国文化論	東亜大学/東亜大学東アジア文化研究所	風習や芸能など、韓国の国民生活	有料					○
下関コリアンフードフェスタ	グリーンモール商店街/商工復興課	コリアンフード、とんちゃん鍋、チマチョゴリファッションショー	無料			○※	○※	○

※市報には掲載されていないが、開講されている講座。

近年、韓流ブームにより韓国語学習者が爆発的に増加し、韓国語を取り巻く環境も急変しつつある。下関地域で開かれている韓国語の講座数は年々増えていて、レベルや目的、時間といったニーズに応じた講座を選ぶことができる状況である。調査の結果、下関韓国教育院、下関市日韓親善協会、市役所の国際課、勤労福祉会館、ユープル下関より提供されるものが中心であることがわかった。その他、市内の各大学が地域への知の還元および地域貢献の一環として講座を開いている。ただ、これらの講義場所は旧市内に集中しているため、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町の市民は距離的に不便を感じていると推測される³⁾。

講座は主に平日の夜の時間帯に開かれているが、主婦やお仕事で間に合わない人のために昼間や土曜日の講座も設けられている。講座の担当者は韓国人留学生が最も多く（下関

日韓親善協会主催）、韓国の政府機関である教育部から派遣された学校の先生（下関韓国教育院主催）や釜山広域市派遣公務員（国際課主催）などによる講座がある。

これらの講座は受講しやすい料金で（無料の場合も含む）提供され、勤労市民とその家族の皆様の就業・転職・趣味・生涯学習・定年ライフに向けての支援を行っている。

また、下関市は韓国・釜山広域市と姉妹都市であることもあって、語学講座以外にも朝鮮通信使行列再現や韓国文化体験短期研修、リトル釜山フェスタ、下関コリアンフードフェスタなど数多くの文化・料理・交流会が毎年開かれている。

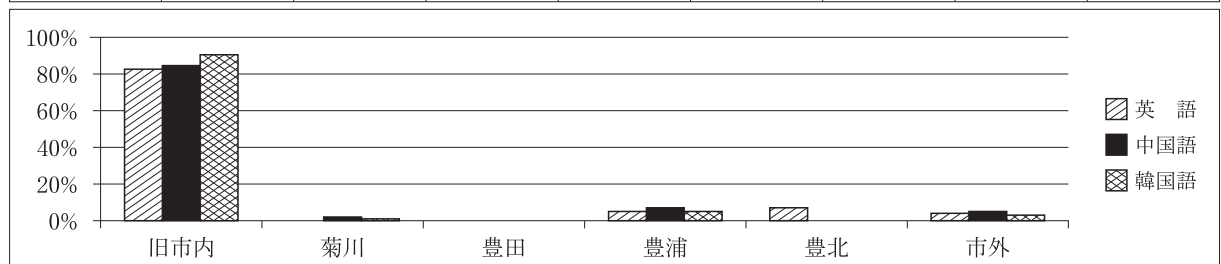
Ⅲ アンケート調査分析

本研究では、下関市民を対象とした外国語学習に対するアンケート表を作成した後、合計335名（英語99名、中国語46名、韓国語190名）の市民から回答を得た。本アンケートは、1. 回答者の属性に関する質問（5問）、2. 学習動機に関する質問（10問）、3. 学習方法に関する質問（7問）、4. 学習環境に関する質問（13問）、5. 市民講座への要望に関する質問（10問）の5項目と項目ごとの自由記述から構成されるものである。本章では、このアンケートの調査結果を表とグラフで示し、項目ごとに考察を行う。

1. 回答者の属性に関する分析結果

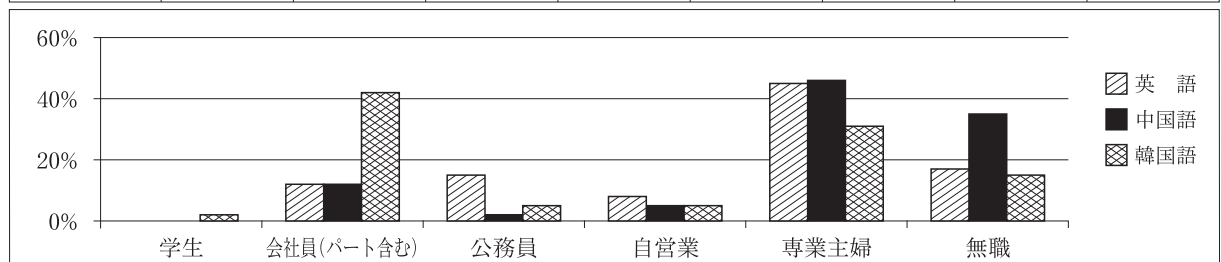
（1）居住区別

	旧市内	菊川	豊田	豊浦	豊北	市外	有効回答	無効回答
英語	82(84%)	0(0%)	0(0%)	5(5%)	7(7%)	4(4%)	98	1
中国語	38(86%)	1(2%)	0(0%)	3(7%)	0(0%)	2(5%)	44	2
韓国語	174(92%)	1(1%)	0(0%)	9(5%)	0(0%)	6(3%)	190	0



（2）職業別

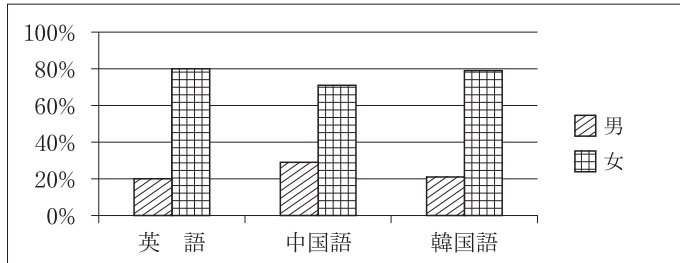
	学生	会社員(パート含む)	公務員	自営業	専業主婦	無職	有効回答	無効回答
英語	0(0%)	12(12%)	15(15%)	8(8%)	44(45%)	17(17%)	98	1
中国語	0(0%)	5(12%)	1(2%)	2(5%)	20(46%)	15(35%)	43	3
韓国語	3(2%)	79(42%)	9(5%)	9(5%)	59(31%)	29(15%)	188	2



(3) 性別別

単位：名

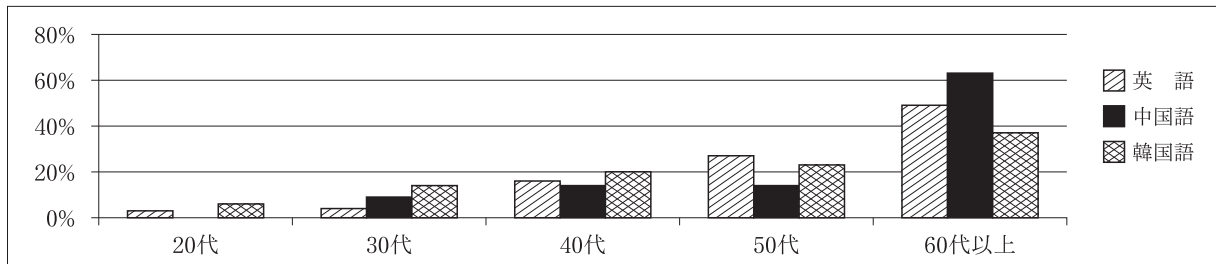
	男	女	有効回答	無効回答
英語	20(20%)	79(80%)	99	0
中国語	13(29%)	32(71%)	45	1
韓国語	40(21%)	150(79%)	190	0



(4) 年齢別

単位：名

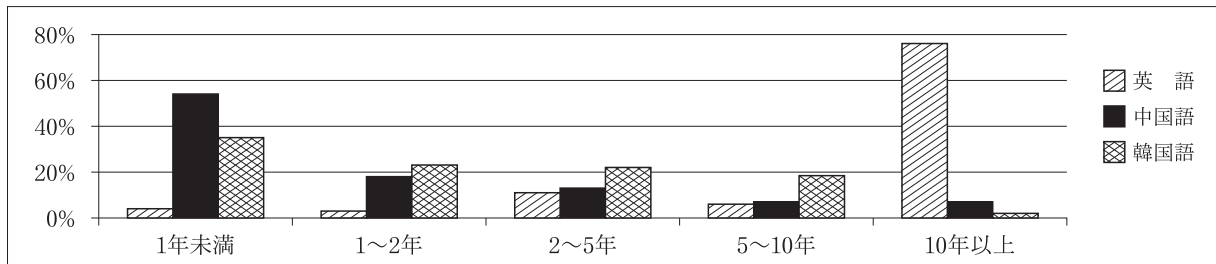
	20代	30代	40代	50代	60代以上	有効回答	無効回答
英語	3(3%)	4(4%)	16(16%)	27(27%)	49(49%)	99	0
中国語	0(0%)	4(9%)	6(14%)	6(14%)	28(63%)	44	2
韓国語	11(6%)	27(14%)	37(20%)	44(23%)	70(37%)	189	1



(5) 学習歴別

単位：名

	1年未満	1~2年	2~5年	5~10年	10年以上	有効回答	無効回答
英語	4(4%)	3(3%)	10(11%)	6(6%)	72(76%)	95	4
中国語	21(54%)	7(18%)	5(13%)	3(7%)	3(7%)	39	7
韓国語	67(35%)	43(23%)	41(22%)	36(19%)	3(2%)	190	0



回答者の属性に関する分析をしてみると、まず居住区別の回答率は、市全体の構成比⁴⁾と比較して大きな偏りは見られなかった(質1)。ただ、性別比においては英・中・韓のどの言語においても共通して70%~80%の比率で女性の方が高かった(質3)。年齢回答率は60歳以上の年齢階層がどの言語においても高い傾向にあるが、中でも中国語が63%で最も高かった。これは職業別の回答でも中国語学習者の35%が無職であることと関係すると思われる(質2)。それに引き替え、韓国語は30、40、50代の比率が57%を占めていて他

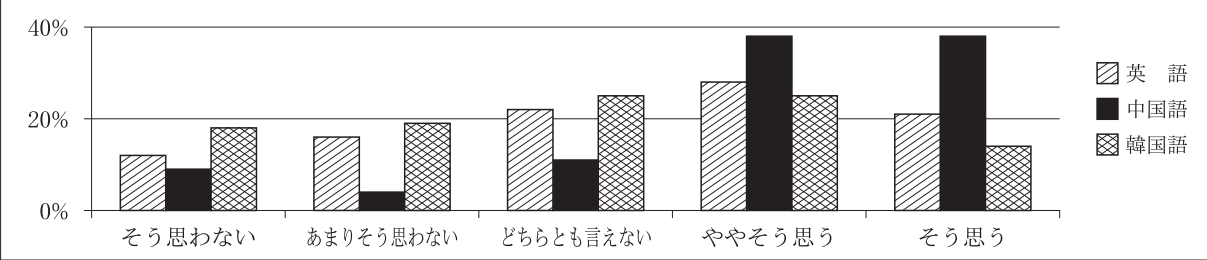
の言語に比べ若干若い人が多かった（質4）。学習歴については、「10年以上」と答えた人は英語が最も多い76%で、中国語7%、韓国語2%だった。中学校時代から学んだ世界共通語である英語と何かしらの関わりを持ち続けている学習者が多いと思われる。中国語は54%の人が「1年未満」と答えたが、韓国語は「10年以内」と答えた人が98%を占めていて、2000年代以降から始まった近年の韓流ブーム⁵⁾の影響が伺える（質5）。

2. 学習動機に関する分析結果

(1) 英語（中国語・韓国語）に限らず、もともと外国語を勉強するのが好きだから

単位：名

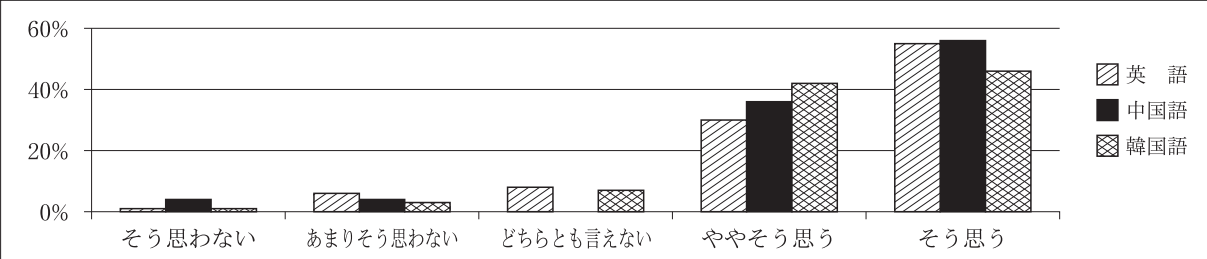
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	12(12%)	16(16%)	22(22%)	27(28%)	21(21%)	98	1
中国語	4(9%)	2(4%)	5(11%)	17(38%)	17(38%)	45	1
韓国語	33(18%)	35(19%)	46(25%)	46(25%)	25(14%)	185	5



(2) 英語（中国語・韓国語）の学習を通じて文化や考え方を学びたいから

単位：名

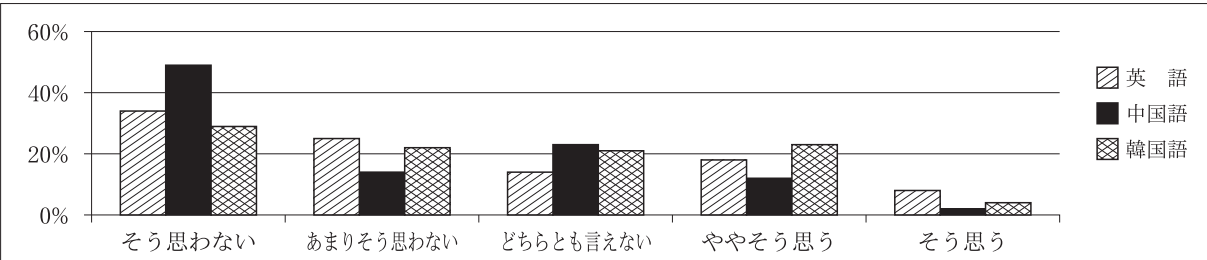
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	1(1%)	6(6%)	8(8%)	30(30%)	54(55%)	99	0
中国語	2(4%)	2(4%)	0(0%)	16(36%)	25(56%)	45	1
韓国語	2(1%)	6(3%)	14(7%)	79(42%)	86(46%)	187	3



(3) 英語（中国語・韓国語）の検定試験に合格して、資格を持ちたいから

単位：名

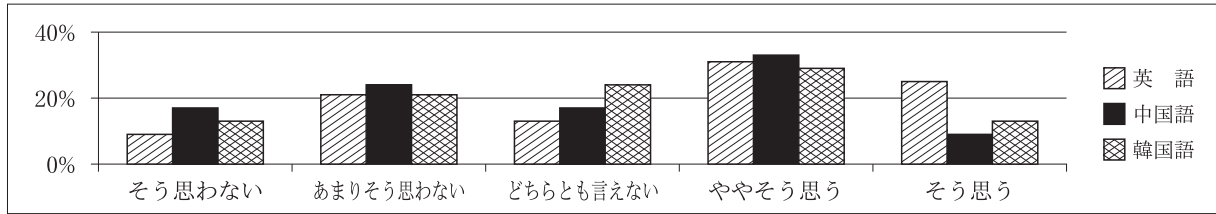
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	34(34%)	25(25%)	14(14%)	18(18%)	8(8%)	99	0
中国語	21(49%)	6(14%)	10(23%)	5(12%)	1(2%)	43	3
韓国語	55(29%)	42(22%)	40(21%)	44(23%)	7(4%)	188	2



(4) 英語（中国語・韓国語）の文学作品や新聞を読みたいから

単位：名

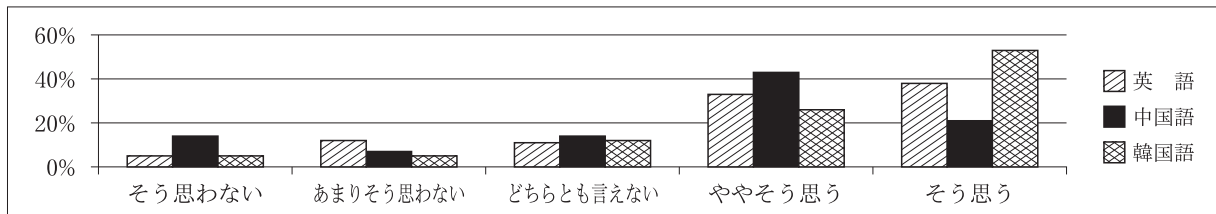
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	9(9%)	21(21%)	13(13%)	31(31%)	25(25%)	99	0
中国語	7(17%)	10(24%)	7(17%)	14(33%)	4(9%)	42	4
韓国語	25(13%)	40(21%)	45(24%)	54(29%)	24(13%)	188	2



(5) 映画・ドラマなどを英語（中国語・韓国語）で理解したいから

単位：名

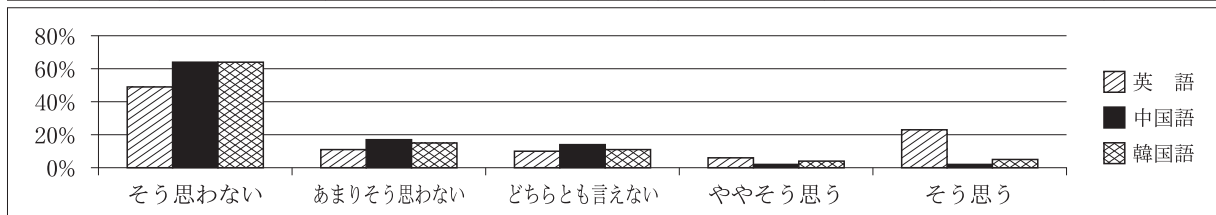
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	5(5%)	12(12%)	11(11%)	33(33%)	38(38%)	99	0
中国語	6(14%)	3(7%)	6(14%)	18(43%)	9(21%)	42	4
韓国語	9(5%)	9(5%)	22(12%)	48(26%)	100(53%)	188	2



(6) 英語（中国語・韓国語）は自分の仕事に必要なだ

単位：名

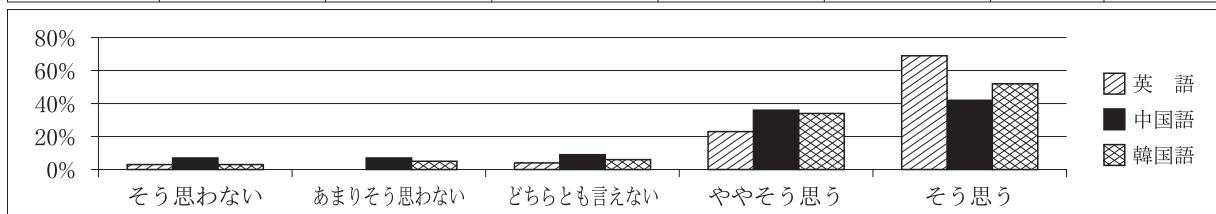
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	49(49%)	11(11%)	10(10%)	6(6%)	23(23%)	99	0
中国語	27(64%)	7(17%)	6(14%)	1(2%)	1(2%)	42	4
韓国語	121(64%)	28(15%)	21(11%)	8(4%)	10(5%)	188	2



(7) 英語（中国語・韓国語）圏の人々と原語でコミュニケーションをとりたから

単位：名

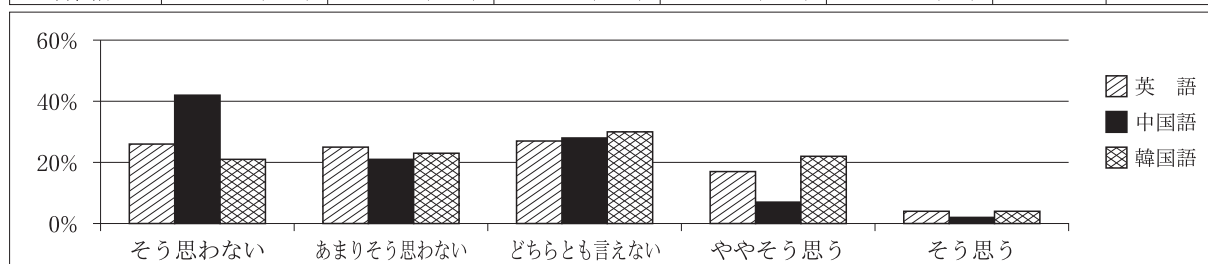
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	3(3%)	0(0%)	4(4%)	23(23%)	68(69%)	98	1
中国語	3(7%)	3(7%)	4(9%)	16(36%)	19(42%)	45	1
韓国語	5(3%)	9(5%)	12(6%)	65(34%)	98(52%)	189	1



(8) 英語（中国語・韓国語）は他の外国語に比べて簡単そうだから

単位：名

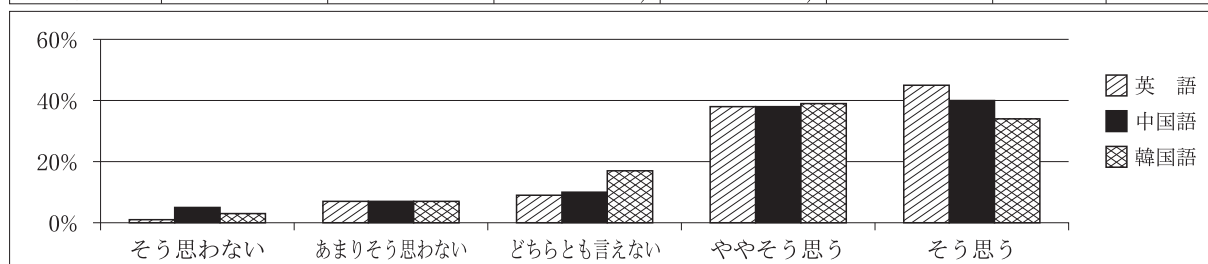
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	26(26%)	25(25%)	27(27%)	17(17%)	4(4%)	99	0
中国語	18(42%)	9(21%)	12(28%)	3(7%)	1(2%)	43	3
韓国語	39(21%)	43(23%)	56(30%)	41(22%)	7(4%)	186	4



(9) 英語(中国語・韓国語)の学習を通して、新たな価値観や思想を発見し、自分の視野を広めたいから

単位：名

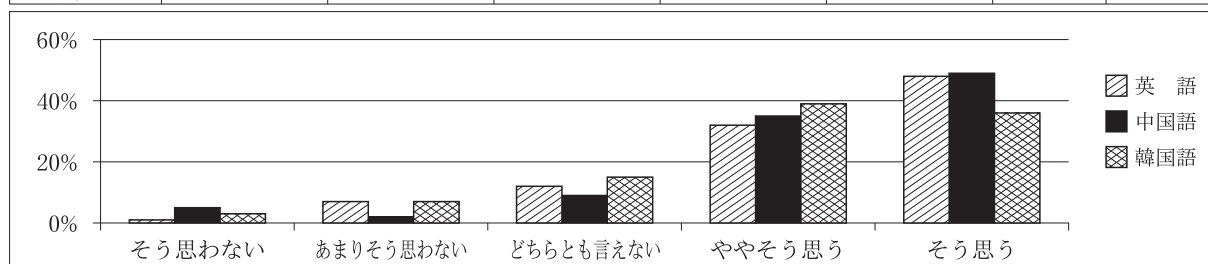
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	1(1%)	7(7%)	9(9%)	37(38%)	44(45%)	98	1
中国語	2(5%)	3(7%)	4(10%)	16(38%)	17(40%)	42	4
韓国語	6(3%)	14(7%)	32(17%)	73(39%)	63(34%)	188	2



(10) 生涯学習の一環として

単位：名

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	1(1%)	7(7%)	12(12%)	31(32%)	47(48%)	98	1
中国語	2(5%)	1(2%)	4(9%)	15(35%)	21(49%)	43	3
韓国語	6(3%)	13(7%)	28(15%)	74(39%)	68(36%)	189	1



習得に長い年月と努力を要する外国語学習にとって、動機づけは極めて重要な要因になる。語学学習に対する強い動機づけを伴う自発的な取り組みこそが、語学運用能力の向上につながるためである⁶⁾。本研究では下関市民の外国語学習の動機を把握し、適切なサポートを探っていくことを目的とするため、英語（中国語・韓国語）の学習動機についてアンケート調査を行った。

その結果、「もともと外国語を勉強するのが好きだから」（質1）という質問に「そう思

う・ややそう思う」と答えた中国語学習者は76%で、英語49%、韓国語39%に比べ非常に高い傾向にあった。この結果に関連して、中国語学習者にとって中国語学習は自分の仕事にあまり必要じゃないし（質6）、他の言語に比べ簡単そうじゃないと思う（質8）、また検定試験などの資格も要らない（質3）けど、勉強が好きだと答えたアカデミックな学習者が多いことが分かった。

それに引き替え、韓国語の学習者は「映画・ドラマなどを原語で理解したいから」（質5）という質問に81%の人が「そう思う・ややそう思う」と答え、英語71%、中国語64%に比べ高い傾向にあった。韓国語の学習者は、あまり外国語勉強が好きではないけど（質1）、K-POPや韓国ドラマ・映画などの韓流ブームに続く「ハングルブーム」で韓国語学習に対する関心が高まっているようである。

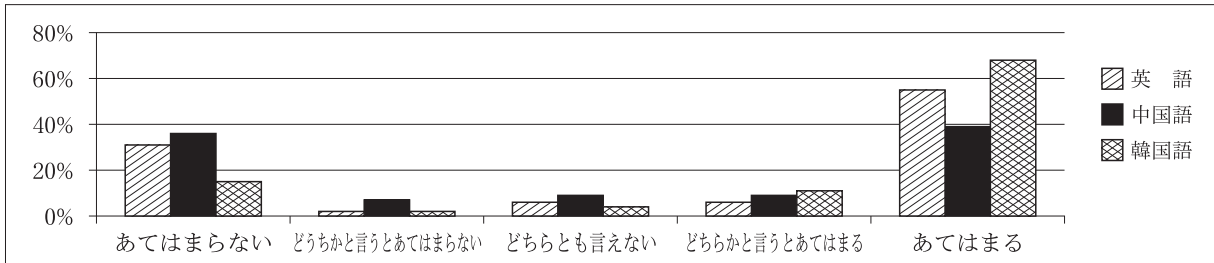
英語学習者の場合は、約3割の人が「自分の仕事に必要だから」（質6）と答えた。これは中国語4%、韓国語9%と比べ非常に高い割合である。グローバル化が急速に進んでいるビジネスにおいて、英語力が必要不可欠となってきたため「業務における英語力の必要性」が伺えた。

3. 学習方法に関する分析結果

(1) 市民向けの講座や民間の外国語学校に通い、勉強している

単位：名

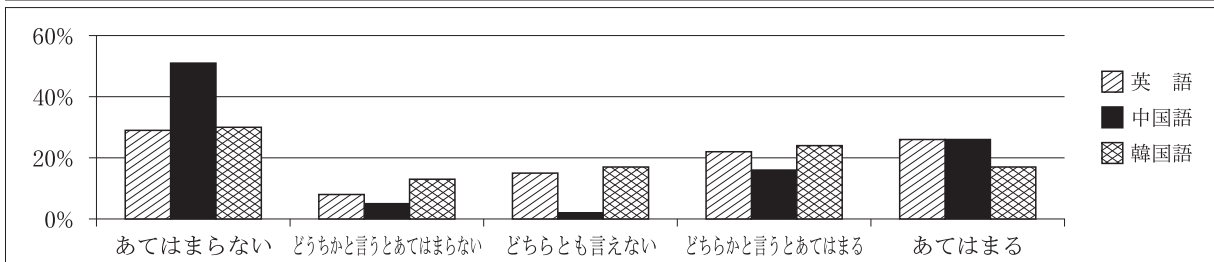
	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	30(31%)	2(2%)	6(6%)	6(6%)	53(55%)	97	2
中国語	16(36%)	3(7%)	4(9%)	4(9%)	17(39%)	44	2
韓国語	28(15%)	4(2%)	8(4%)	21(11%)	127(68%)	188	2



(2) テレビ、ラジオ講座で英語（中国語・韓国語）を勉強している

単位：名

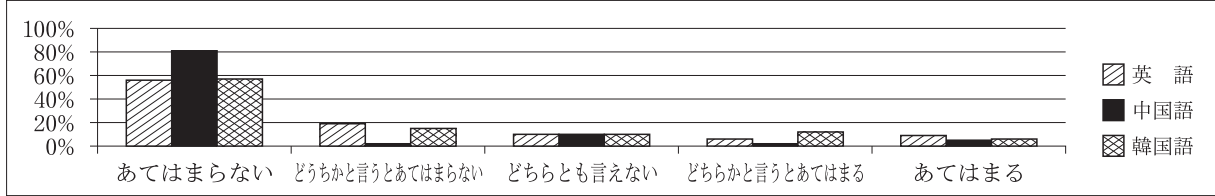
	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	28(29%)	8(8%)	14(15%)	21(22%)	25(26%)	96	3
中国語	22(51%)	2(5%)	1(2%)	7(16%)	11(26%)	43	3
韓国語	55(30%)	24(13%)	31(17%)	44(24%)	31(17%)	185	5



(3) インターネットを使用して英語（中国語・韓国語）を勉強している

単位：名

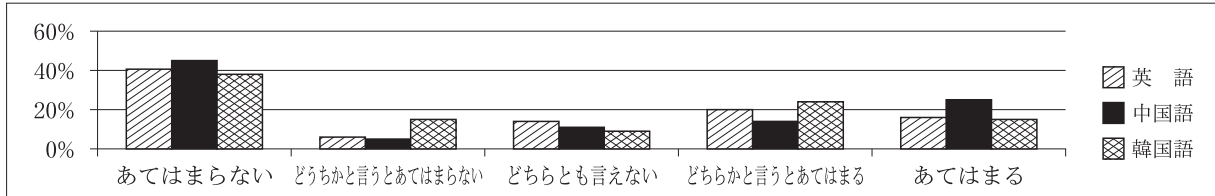
	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	55(56%)	19(19%)	10(10%)	6(6%)	9(9%)	99	0
中国語	34(81%)	1(2%)	4(10%)	1(2%)	2(5%)	42	4
韓国語	103(57%)	28(15%)	19(10%)	21(12%)	11(6%)	182	8



(4) 自分が選んだ学習書や参考書を使用して英語（中国語・韓国語）を勉強している

単位：名

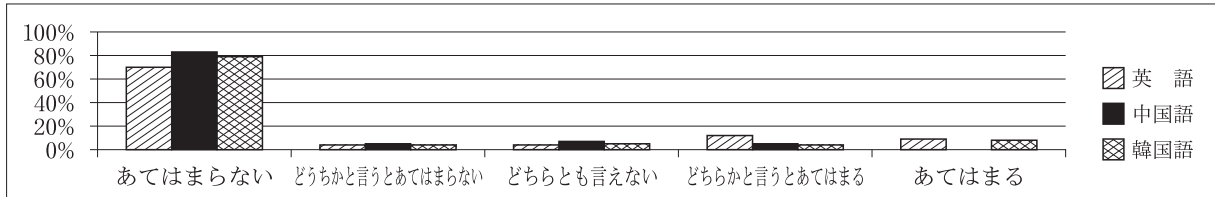
	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	40(41%)	6(6%)	14(14%)	22(22%)	16(16%)	98	1
中国語	20(45%)	2(5%)	5(11%)	6(14%)	11(25%)	44	2
韓国語	70(38%)	27(15%)	16(9%)	45(24%)	27(15%)	185	5



(5) 知り合いや家庭教師などに個人的に直接指導してもらい勉強している

単位：名

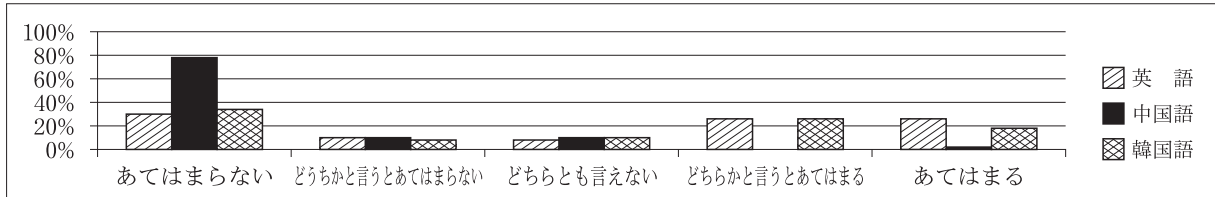
	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	69(70%)	4(4%)	4(4%)	12(12%)	9(9%)	98	1
中国語	35(83%)	2(5%)	3(7%)	2(5%)	0(0%)	42	4
韓国語	145(79%)	8(4%)	9(5%)	7(4%)	14(8%)	183	7



(6) ニュースやドラマを見たり、また英語の新聞や小説を読んで勉強している

単位：名

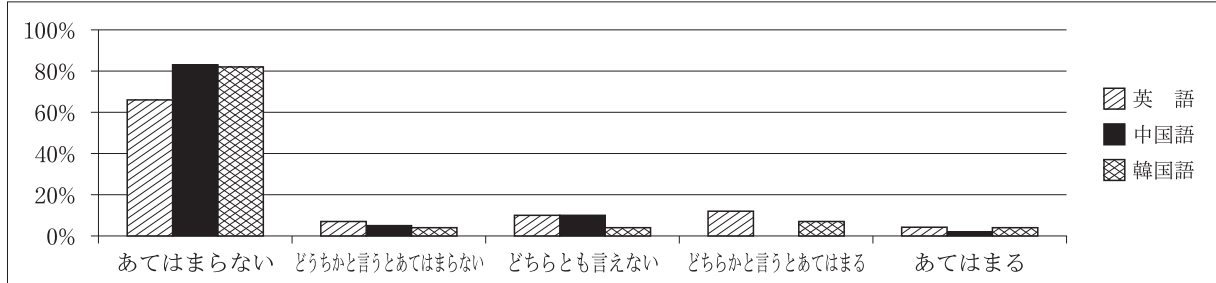
	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	29(30%)	10(10%)	8(8%)	25(26%)	25(26%)	97	2
中国語	32(78%)	4(10%)	4(10%)	0(0%)	1(2%)	41	5
韓国語	64(34%)	14(8%)	27(15%)	48(26%)	33(18%)	186	4



(7) 短期留学や国際交流活動に参加して勉強している

単位：名

	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	有効回答	無効回答
英語	65(66%)	7(7%)	10(10%)	12(12%)	4(4%)	98	1
中国語	35(83%)	2(5%)	4(10%)	0(0%)	1(2%)	42	4
韓国語	152(82%)	7(4%)	7(4%)	13(7%)	7(4%)	186	4



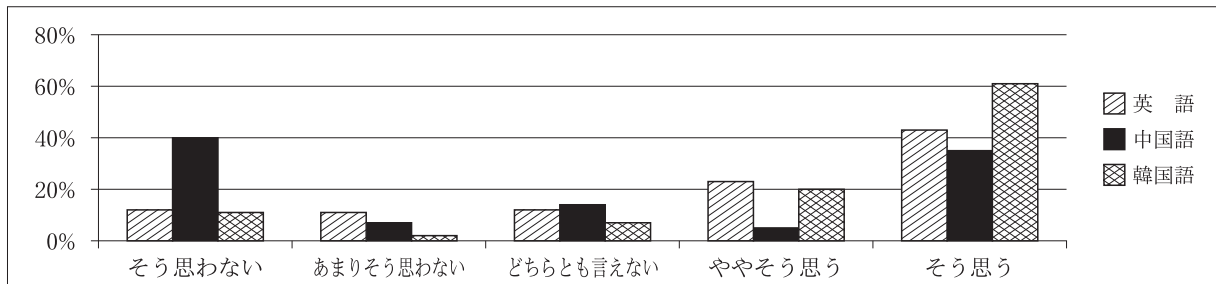
(質1) 英語と中国語は約半数が市民講座や外国語学校に通い学習をしていることがわかるが、韓国語に関しては更に比率が高く、約80%の学習者に達する。(質2) 英・中・韓についての約半数の学習者がテレビやラジオ講座を利用している。(質3) インターネットを利用している学習者は英・中・韓すべてにおいて比率が低いことがわかる。とりわけ中国語に関しては大多数の学習者がインターネットを使用していない。(質4) 学習書や参考書を使用している学習者は英・中・韓とも約半数の割合である。(質5) 英・中・韓すべてについて約80%の学習者が個人指導を受けていないことがわかる。英語については、約20%の学習者が個人指導を受けていると見なせるが、これは中国語や韓国語より比率が少し高い。(質6) 英語と韓国語の二言語と中国語で大きな差が見られた。英語と韓国語は約半数の学習者がニュースや新聞等を利用していると見なせるが、中国語に関してはほとんどいない。(質7) 英・中・韓とも参加をしたことがない学習者がほとんどであると思なせる。

4. 学習環境に関する分析結果

(1) 私の居住区には一般市民が学べるような講座や教室がある

単位：名

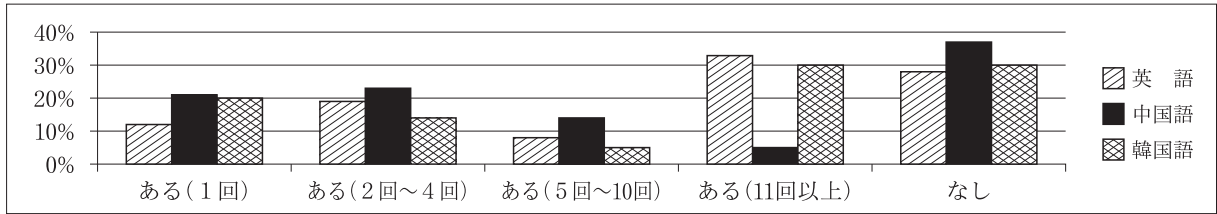
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	11(12%)	10(11%)	11(12%)	22(23%)	41(43%)	95	4
中国語	17(40%)	3(7%)	6(14%)	2(5%)	15(35%)	43	3
韓国語	20(11%)	3(2%)	14(7%)	37(20%)	115(61%)	189	1



(2) 私は今まで市民向けの外国語講座を受けたことがある。

単位：名

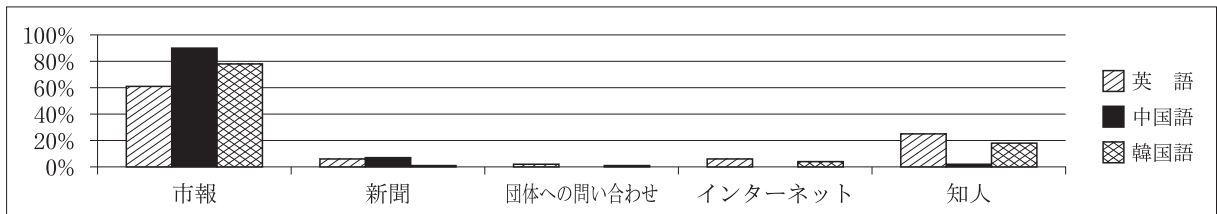
	ある(1回)	ある(2回~4回)	ある(5回~10回)	ある(11回以上)	なし	有効回答	無効回答
英語	12(12%)	18(19%)	8(8%)	32(33%)	27(28%)	97	2
中国語	9(21%)	10(23%)	6(14%)	2(5%)	16(37%)	43	3
韓国語	38(20%)	27(14%)	9(5%)	57(30%)	57(30%)	188	2



(3) 市民向けの講座の情報を〇〇から手に入れている

単位：名

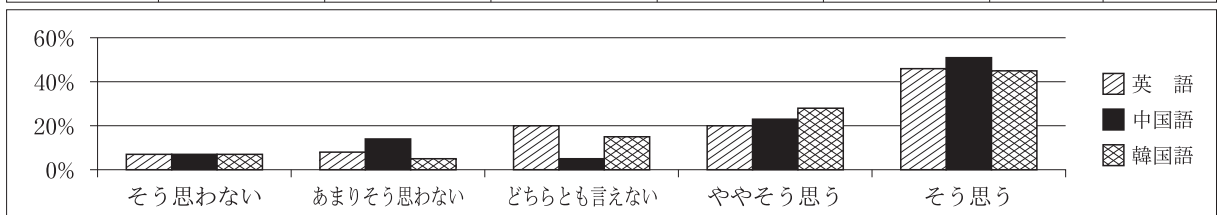
	市報	新聞	団体への問い合わせ	インターネット	知人	有効回答	無効回答
英語	67(61%)	7(6%)	2(2%)	6(6%)	27(25%)	109	9
中国語	38(90%)	3(7%)	0(0%)	0(0%)	1(2%)	42	4
韓国語	124(78%)	1(1%)	1(1%)	6(4%)	28(18%)	160	30



(4) 市民向けの講座は行きやすく、分かりやすい場所にある

単位：名

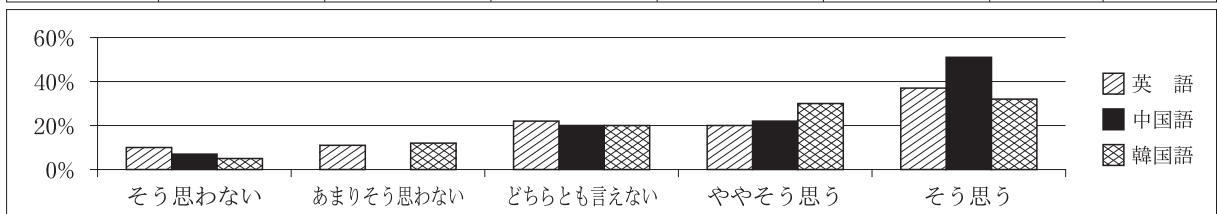
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	6(7%)	7(8%)	18(20%)	18(20%)	42(46%)	91	8
中国語	3(7%)	6(14%)	2(5%)	10(23%)	22(51%)	43	3
韓国語	12(7%)	10(5%)	27(15%)	52(28%)	83(45%)	184	6



(5) 市民向けの講座の時間帯は私の都合に合っている

単位：名

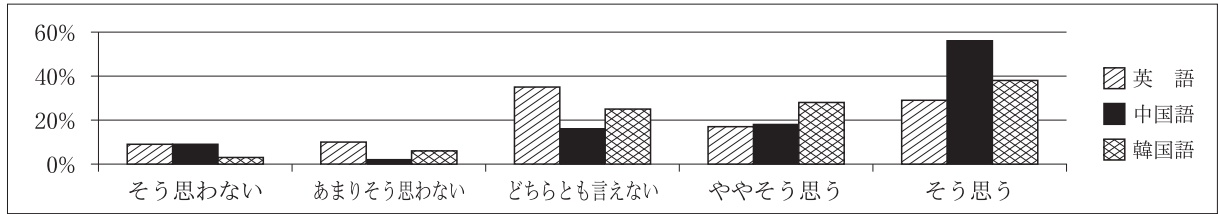
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	9(10%)	10(11%)	21(22%)	19(20%)	35(37%)	94	5
中国語	3(7%)	0(0%)	9(20%)	10(22%)	23(51%)	45	1
韓国語	10(5%)	22(12%)	37(20%)	56(30%)	60(32%)	185	5



(6) 市民向けの講座の回数は適当である

単位：名

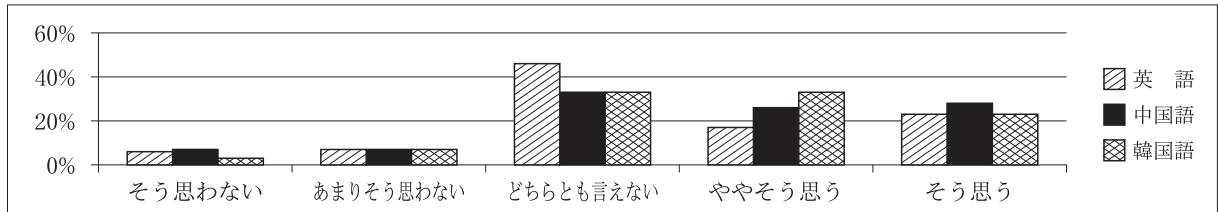
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	8(9%)	9(10%)	32(35%)	16(17%)	27(29%)	92	7
中国語	4(9%)	1(2%)	7(16%)	8(18%)	25(56%)	45	1
韓国語	5(3%)	11(6%)	46(25%)	52(28%)	70(38%)	184	6



(7) 市民向けの講座のレベルは自分のレベルに合っている

単位：名

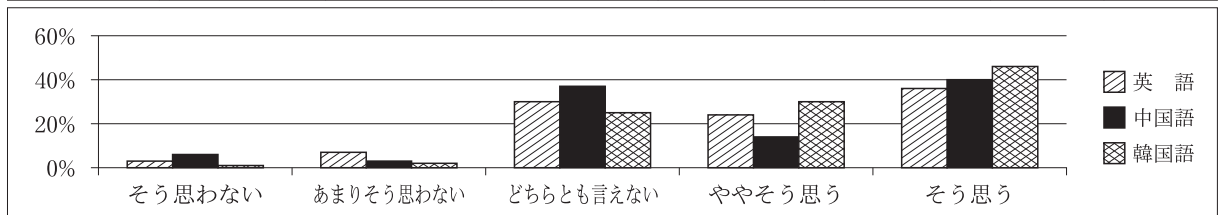
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	6(6%)	7(7%)	43(46%)	16(17%)	22(23%)	94	5
中国語	3(7%)	3(7%)	14(33%)	11(26%)	12(28%)	43	3
韓国語	6(3%)	13(7%)	61(33%)	61(33%)	42(23%)	183	7



(8) 市民向けの講座の授業料は適切である

単位：名

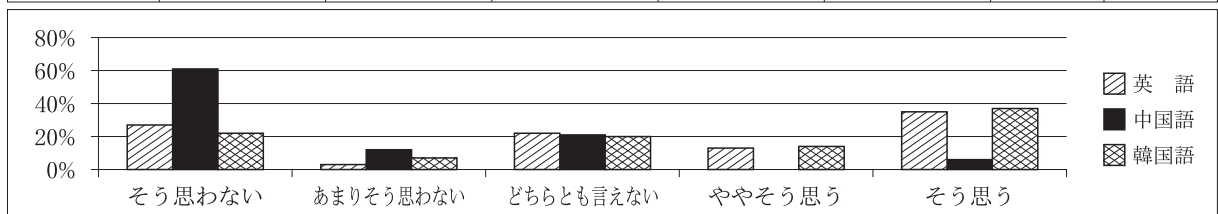
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	3(3%)	6(7%)	28(30%)	22(24%)	33(36%)	92	7
中国語	2(6%)	1(3%)	13(37%)	5(14%)	14(40%)	35	11
韓国語	2(1%)	3(2%)	47(25%)	51(27%)	87(46%)	190	0



(9) 資格試験や検定試験などが自分の居住地区で行われている

単位：名

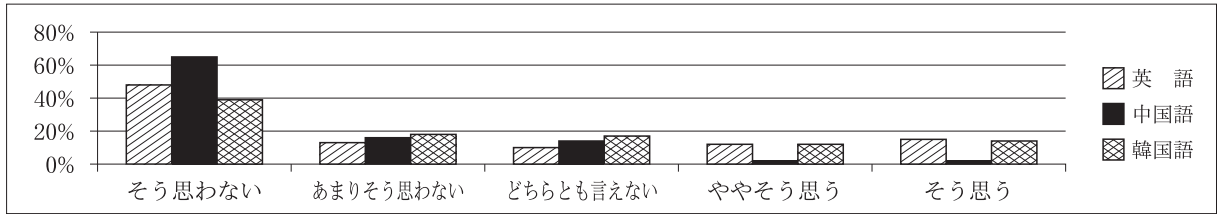
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	25(27%)	3(3%)	20(22%)	12(13%)	32(35%)	92	7
中国語	20(61%)	4(12%)	7(21%)	0(0%)	2(6%)	33	13
韓国語	38(22%)	12(7%)	34(20%)	23(14%)	63(37%)	170	20



(10) 自分の居住区で直接ネイティブと会話をする機会がある

単位：名

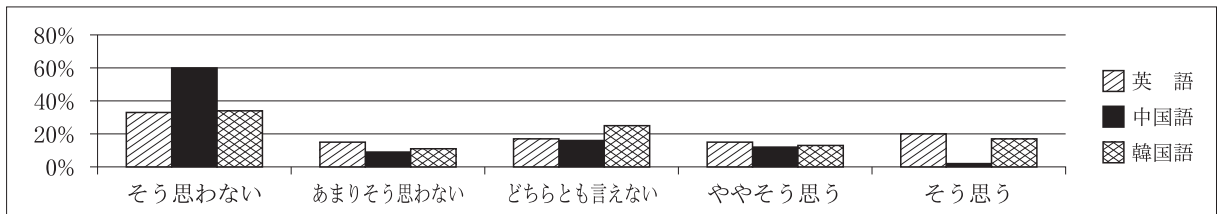
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	47(48%)	13(13%)	10(10%)	12(12%)	15(15%)	97	2
中国語	28(65%)	7(16%)	6(14%)	1(2%)	1(2%)	43	3
韓国語	72(39%)	33(18%)	31(17%)	23(12%)	26(14%)	185	5



(11) 学習者同士のコミュニティが自分の居住区にある

単位：名

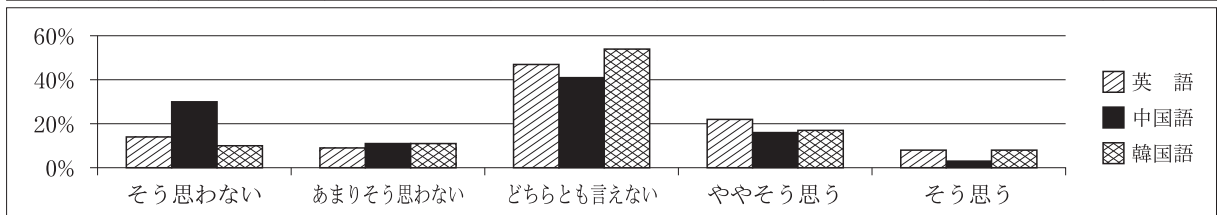
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	30(33%)	14(15%)	16(17%)	14(15%)	18(20%)	92	7
中国語	26(60%)	4(9%)	7(16%)	5(12%)	1(2%)	43	3
韓国語	63(34%)	20(11%)	45(25%)	24(13%)	31(17%)	183	7



(12) 市の図書館や市内の各大学の図書館に語学学習関係の書籍が充実している

単位：名

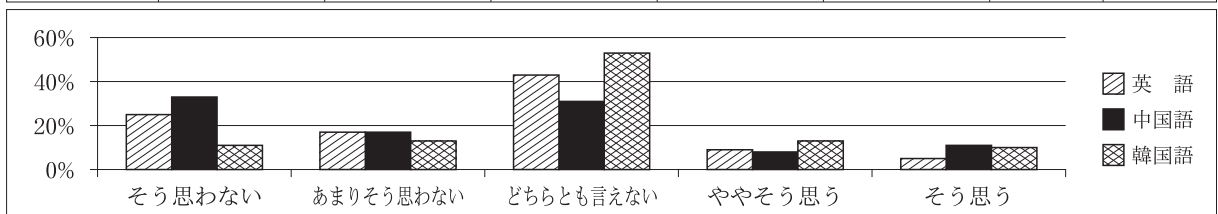
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	12(14%)	8(9%)	41(47%)	19(22%)	7(8%)	87	12
中国語	11(30%)	4(11%)	15(41%)	6(16%)	1(3%)	37	9
韓国語	18(10%)	19(11%)	98(54%)	31(17%)	14(8%)	180	10



(13) 市役所や市立大学から提供されている外国語教育のサービスに満足している

単位：名

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	23(25%)	16(17%)	40(43%)	8(9%)	5(5%)	92	7
中国語	12(33%)	6(17%)	11(31%)	3(8%)	4(11%)	36	10
韓国語	20(11%)	23(13%)	96(53%)	23(13%)	19(10%)	181	9



(質1) 韓国語、英語、中国語の順で居住区周辺に講座、教室があるなどの学習環境が整っていることがわかる。中国語に関しては「そう思わない」の回答が約40%である。

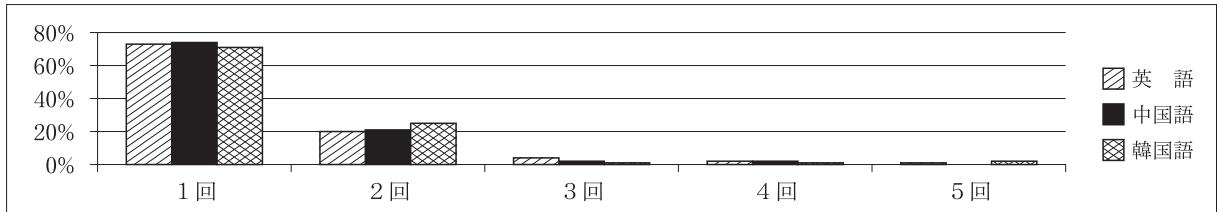
(質2) 市民向けの外国語講座を受けたことがない学習者は英・中・韓とも約30%である。英語と韓国語に関しては「11回以上」受けたことがある学習者が約30%である。(質3) 市報から情報を得ている学習者が圧倒的に多い。また英語と韓国語については、「知り合い」から情報を得ている学習者がおおよそ20%を占めた。ただ、この質問に対しては回答を記さないなど無効回答が合計43で、他の質問事項よりも多かった。(質4) 開催される場所に関しては「ややそう思う」、「そう思う」の肯定的な回答が英・中・韓とも大半を占める。(質5) について、開催される時間帯についても「ややそう思う」、「そう思う」の肯定的な回答が英・中・韓とも半数以上を占めた。ただ英語と韓国語に関しては「そうは思わない」、「あまりそうは思わない」の否定的な回答が約20%あった。(質6) 講座の全回数について、英・中・韓とも約半数の学習者が肯定的な回答をしている。また、英語では3人に1人、韓国語では4人に1人が「どちらとも言えない」の回答をしている。(質7) 英語は約40%、中国語と韓国語はおおよそ半数が肯定的な回答をしている。また英語では「どちらとも言えない」の回答が半数近くを占めている。(質8) 韓国語、英語、中国語の順で授業料は適切であるということに対して肯定的な回答が多い。(質9) 英語、韓国語の二つの言語と中国語で差が見られた。英語と韓国語では、約半数が肯定的な回答をしているのに対して、中国語では「そう思わない」の回答が約60%に至った。ただ、この質問に対しては回答を記さないなど無効回答が合計40で、他の質問事項よりも多かった。(質10) 英語、韓国語の二つの言語と中国語で差が見られた。英語と韓国語ではおおよそ4人に1人が、機会があるということに対して、肯定的な回答をしていたが、中国語ではほとんどなかった。中国語では、約80%が否定的な回答をしている。(質11) 英語、韓国語の二つの言語と中国語で大きな差が見られた。英語と韓国語では「ややそう思う」、「そう思う」の肯定的な回答が約30%であるが、中国語はそれよりも少なかった。また中国語の「そうは思わない」の回答はおおよそ60%に達し、英語と韓国語の割合より大きく上回っている。(質12) 英・中・韓ともに「どちらとも言えない」の回答が約半数を占めており、また肯定的な回答はおおよそ20~30%である。ただ、この質問に対しては回答を記さないなど無効回答が合計31あり、他の質問事項よりも多かった。(質13) 全体的に見ると韓国語の満足度が他の二つの外国語よりもやや高い。ただ、英・中・韓すべての肯定的な回答は25%に至っておらず、否定的な回答の割合を下回っている。

5. 市民講座への要望に関する分析結果

(1) 市民講座の回数は週～回くらいが望ましい

単位：名

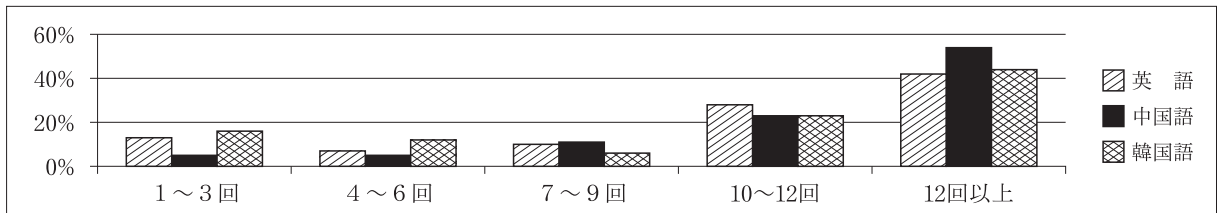
	1回	2回	3回	4回	5回	有効回答	無効回答
英語	71(73%)	19(20%)	4(4%)	2(2%)	1(1%)	97	2
中国語	32(74%)	9(21%)	1(2%)	1(2%)	0(0%)	43	3
韓国語	129(71%)	46(25%)	1(1%)	2(1%)	3(2%)	181	9



(2) 一つの市民講座の合計回数は～回くらいが望ましい

単位：名

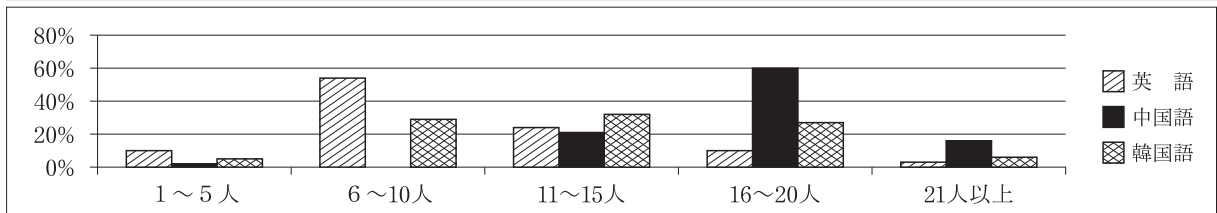
	1～3回	4～6回	7～9回	10～12回	12回以上	有効回答	無効回答
英語	12(13%)	6(7%)	9(10%)	25(28%)	37(42%)	89	10
中国語	2(5%)	2(5%)	5(13%)	9(23%)	21(54%)	39	7
韓国語	28(16%)	21(12%)	10(6%)	41(23%)	79(44%)	179	11



(3) 市民講座のークラスの人数は～人くらいが望ましい

単位：名

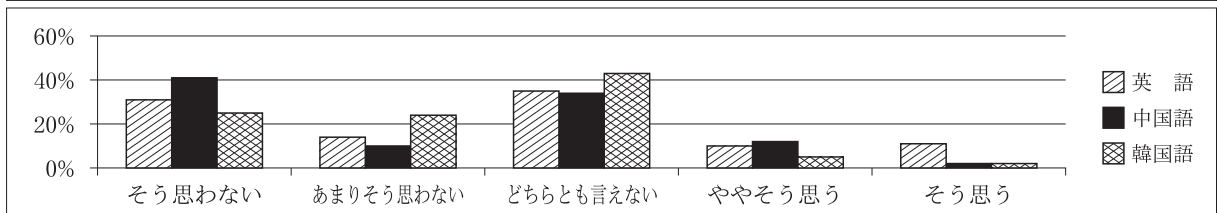
	1～5人	6～10人	11～15人	16～20人	21人以上	有効回答	無効回答
英語	9(10%)	50(54%)	22(24%)	9(10%)	3(3%)	93	6
中国語	1(2%)	0(0%)	9(21%)	26(60%)	7(16%)	43	3
韓国語	10(5%)	54(29%)	60(32%)	51(27%)	11(6%)	186	4



(4) ビジネス会話やビジネス用語中心の講座が望ましい

単位：名

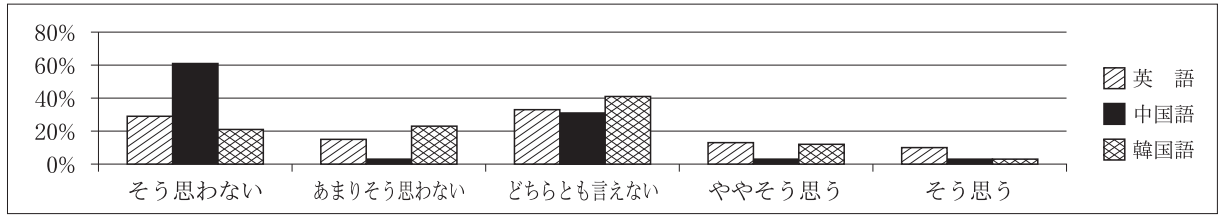
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	29(31%)	13(14%)	33(35%)	10(11%)	10(11%)	95	4
中国語	17(41%)	4(10%)	14(34%)	5(12%)	1(2%)	41	5
韓国語	46(25%)	45(24%)	80(43%)	9(5%)	4(2%)	184	6



(5) 資格試験対策の講座が望ましい

単位：名

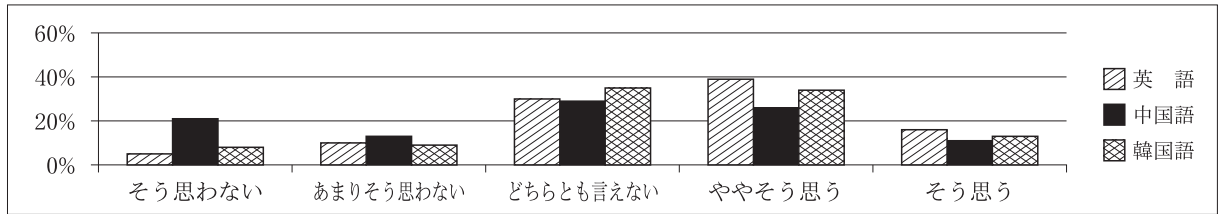
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	28(29%)	14(15%)	32(33%)	12(13%)	10(10%)	96	3
中国語	22(61%)	1(3%)	11(31%)	1(3%)	1(3%)	36	10
韓国語	40(21%)	43(23%)	76(41%)	23(12%)	5(3%)	187	3



(6) 異文化理解中心の講座が望ましい

単位：名

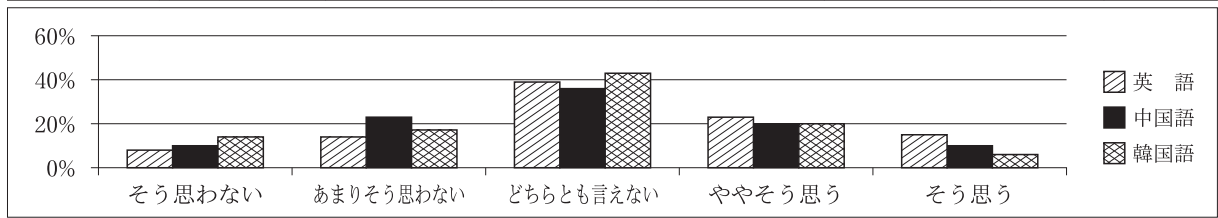
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	5(5%)	10(10%)	29(30%)	37(39%)	15(16%)	96	3
中国語	8(21%)	5(13%)	11(29%)	10(26%)	4(11%)	38	8
韓国語	15(8%)	16(9%)	66(35%)	64(34%)	25(13%)	186	4



(7) 文学作品や新聞など読解中心の講座が望ましい

単位：名

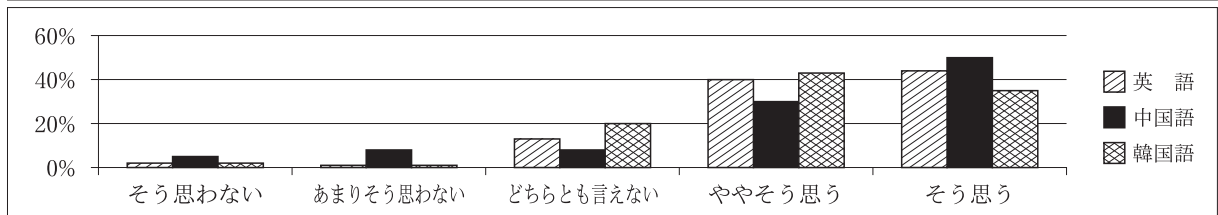
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	8(8%)	14(14%)	38(39%)	22(23%)	15(15%)	97	2
中国語	4(10%)	9(23%)	14(36%)	8(20%)	4(10%)	39	7
韓国語	26(14%)	31(17%)	80(43%)	37(20%)	11(6%)	185	5



(8) コミュニケーション中心の講座が望ましい

単位：名

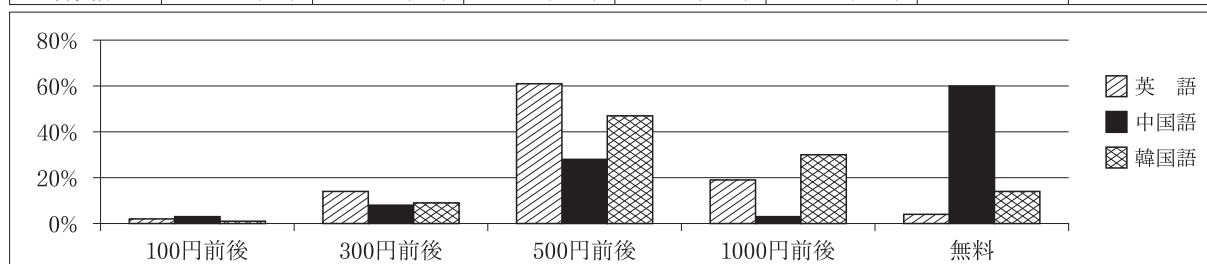
	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う	有効回答	無効回答
英語	2(2%)	1(1%)	12(13%)	38(40%)	41(44%)	94	5
中国語	2(5%)	3(8%)	3(8%)	12(30%)	20(50%)	40	6
韓国語	4(2%)	1(1%)	36(20%)	79(43%)	64(35%)	184	6



(9) 市民向けの講座の授業料は一回につき～円くらいが望ましい

単位：名

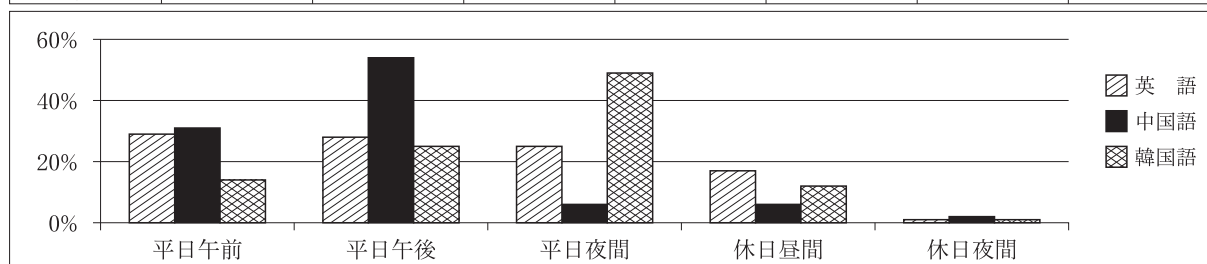
	100円前後	300円前後	500円前後	1000円前後	無料	有効回答	無効回答
英語	2(2%)	13(14%)	57(61%)	18(19%)	4(4%)	94	5
中国語	1(3%)	3(8%)	11(28%)	1(3%)	24(60%)	40	6
韓国語	2(1%)	15(9%)	82(47%)	53(30%)	24(14%)	176	14



(10) 市民講座の開講時間は～が望ましい

単位：名

	平日午前	平日午後	平日夜間	休日昼間	休日夜間	有効回答	無効回答
英語	32(29%)	30(28%)	27(25%)	19(17%)	1(1%)	109	4
中国語	15(31%)	26(54%)	3(6%)	3(6%)	1(2%)	48	2
韓国語	24(14%)	44(25%)	85(49%)	21(12%)	1(1%)	175	15



まず、講座内容の要望に関しては全言語とも同じような傾向がみられ、全体のおよそ80%がコミュニケーション中心の講座を望んでいる（質8）。また、異文化理解中心の講座に関しては、全体の37%から55%が関心を持っているようだが、英語や韓国語学習者と比べ中国語学習者はやや関心が低い（質6）。そして、読解中心の講座は全体の26%から38%が希望している（質7）。ビジネス会話や用語を中心にした講座（質4）や資格試験対策の講座（質5）には、全体としてほとんど関心がないと言えるが、約2割の英語学習者は希望すると答え、中国語や韓国語学習者と比べ多い結果となった。これらの結果は、学習動機の調査結果に密接に関係していると言えるだろう。

講座の実施状況に対する要望に関しても、全言語にわたり共通する要望がみられた一方学習言語によっては分かれる意見もあった。まず、実施回数に関しては、全体の約70%が週に1回の講座実施を希望しており、3回以上の開講を希望する回答者はほとんどいなかった（質1）。一つの講座の合計回数について、約2割が10～12回、4～5割が12回以上を希望している（質2）。開講時間帯に関しては全言語とも平日開講の希望者が多く、その内、中国語の場合は昼間開講の希望が多い一方、英語と特に韓国語に関しては夜間開講の希望が多かった（質10）。これは回答者の年齢と就職状況にも関係しているだろう。また、英語と韓国語に関しては休日の開講に対する希望がわずかながらあった。一クラス

の人数（質3）と授業料（質9）に関する要望は言語別で若干分かれた。英語学習では半数が6～10人のクラスを希望したのに対し、中国語学習ではその倍の16～20人のクラスが好ましいと答えた者が60%を占めた。韓国語学習では突出した希望が出ておらず、6～10人、11～15人、16～20人で均等に分かれた。授業料に関しては、年齢と就職状況の影響だと考えられるが、中国語学習に関しては60%が無料を希望し、英語に関しては約60%が500円前後、韓国語に関しては50%近くが500円前後、30%が1000円前後と答えた。

IV 調査結果に対する考察及び今後の課題について

本章では、市報に対する調査やアンケート調査（アンケートにおける自由記述も含む）の結果を基に、本研究の全体を通して得られた下関市民の外国語学習に関する特徴や問題点を英語、中国語、韓国語の言語に分けて考察する。また、それに応じて、今後市民講座などの外国語学習のサービスを提供する場合、担当者である教員として、どのようにすべきなのかという課題について述べる。

1. 英語

下関地域の英語学習者の特徴の一つは、学習歴が長いことである。これは義務教育の時に英語を学んだことと関係している。その結果、市民向け講座で英語を初めて学ぶ人はいないが、準中級～中上級の学習者の割合は高い。学習者の義務教育以降の英語学習経験が様々であるため、市民向け講座を受講する学習者の英語力、英会話力、自信の程度、モチベーション、動機においてばらつきが激しい。講座を担当する側にとって、このばらつきにどう対応すればよいか悩ましいところである。中上級の受講者に合わせて授業を進めると準中級者がついていけなくなり、途中で講座をやめたり、基礎英語力が伸びずに講座が終わってしまうことがある。会話力がすでに相当高い受講者とそうではなくこれから会話力を身につけたい受講者の発言の量の調整などが困難な場合もある。また、学習歴が長い受講者は英語に関する知識が豊富であるので授業内容の工夫（今までの講座・自己学習の重複を避ける工夫）が必要とされる。市民向けの英語講座を開く際、このばらつきの問題への対応が大きな課題となる。

学習者の講座に対する要望においてもばらつきが見られる。アンケート調査の自由記述からは、一年を通して学びたい、とにかく講座の回数を増やしてほしいという意見が多数あり、現在の講座実施状況に不満を持っている学習者が多いことが分かった。しかし、講座内容などに関しては様々な要望があり、学習歴や学習目標によってその要望内容が異なる。体系的に学びたい、テキストを用いしっかりとカリキュラムを組んだ講座を希望する学習者がいる一方で、とりあえず英語に触れたい、1対1や少人数でネイティブ講師と英会話を楽しめるサロンを希望する学習者もいる。それに加えて、学習者の年齢や職業に応じて受講できる時間帯などにも差異がある。アンケート調査に対して、市民の異なるニーズに応じた様々なレベルや内容の講座を様々な場所や時間帯で提供してほしいという意見

が多数あった。現在下関地域では数多くの英語講座が様々な学校や団体によって提供されているものの、講座内容などに重複が多く見られ、ニーズが満たされていない学習者がいると考えられる。より充実した学習環境を提供するため下関地域の外国語学習サービスを提供する団体や機関の連携が必要と考えられる。また、多くの回答者は講座や学習機会に関する情報の入手に苦勞していると話しているため、下関地域で現在提供されている講座や実施予定のイベントをまとめて紹介するウェブサイトなどの開設が必要と考える⁷⁾。

学習歴が長いことから、効果的な自己学習を行っている英語学習者が多い。アンケートの調査からは、様々な学習法や教材を組み合わせる学んだり、英語を使う機会を積極的に作っている学習者が多くいることが分かった。この学習者の中、講座を受けることだけでは足りない、むしろ一人で学んだ方が効率的かつ効果的だと考えている人もいる。しかし、どの教材を選べばよいか分からない、インターネットをもっと活用したいが具体的な方法が分からないという、自己学習を行いたいのが効果的な方法が分からない学習者も数多くいるようだ。このような学習者の悩みの改善策として、英語の自主学習法などを説明する講座を開く必要があると考えられる。自主学習を継続的に行うには学習法に関する知識だけではなく、やる気も必要。回答者の中には、モチベーションを下げない学習法を見つけたいといった声もあり、モチベーションを維持させる方法などを学習者に紹介する講座もあればよいと考えられる。

英語を実際に使う機会がないからモチベーションを保ち続けられない学習者もいる。アンケートからは、英語を活用する環境として下関地域に強い不満を持っている人が多くいることが分かった。英語を使う機会がほしい、英語で話す相手がほしいと自由記述で答えた人が非常に多かった。外国人ネイティブと話す機会を求めている回答者が多く、教室以外にもネイティブとコミュニケーションをとる機会を設けてほしいという声が圧倒的に多かった。市内に、英語を使うボランティア活動など、何らかの形で英語を活用する企画が定期的に実施されることが望ましいと考える。

様々な外国語講座が提供されることは理想的であるが、学習歴やレベル、講座に対する要望にばらつきが激しい英語に関しては、対応しきれない部分がある。この現状と向き合い、他の解決策を検討する必要もあると考える。市民の生涯学習を考えると、講座やイベントの開催に重点を置く傾向が強いが、市民が自ら学べる力の育成にも力を入れる必要があると考え、上記に述べた教材選びや自主学習法を紹介する講座の実施を優先的に検討する必要があると提案したい。加えて、学習者が集まれる場所の設置が必要とされている。集まれる場所があれば、学習者同士の情報交換や自発的な学習をはじめ、英語学習を目的にした市民グループの形成が自然に行われると期待する。

2. 中国語

下関地域で中国語の市民講座などが開講された場合、まず、その受講者は60歳以上の高齢者が多いということに注視する必要がある。今回のアンケート調査でも60歳以上の

回答者が全回答者の63%を占めていた。第2章で示したアンケート結果における「学習動機について」の質問項目で、「3. 資格を取りたい」「6. 仕事で必要であるから」ということに対して、「ややそう思う」「そう思う」の肯定的な回答した人の割合は、それぞれ「14%」と「4%」であった。これは大学の授業における学生に対する学習動機に関する調査結果とは全く反対の傾向であるが、この点については前述した高齢者が多いことが理由の一つとして考えられる。さらに学習動機として多いのは、「2. 文化を学びたい」「9. 新たな価値観や思想を発見し、視野を広めたい」「10. 生涯学習の一環として」であり、肯定的な回答が、それぞれ「92%」、「78%」、「84%」である。これらの結果から、一般市民の学習者は、資格試験やビジネスなどの「外的調整」⁸⁾という動機による実用的な中国語を学ぶというより、言語の学習を通じ、異文化に関する知識を得ることにより、自己の教養を高めたいという「内発的動機」を持っている受講者が多いということがわかる。市民講座等の担当者はこれらの点を踏まえた上で、講座を進めることが重要であると言える。

「市民講座に対する要望」についての調査結果から、授業内容への要望として最も多かったのは「コミュニケーション中心」の講座であり、80%の回答者が肯定的な回答をした。また「学習動機（質7）」も78%の回答者が肯定的な回答をしている。しかし筆者の経験からすると、一般市民向けの市民講座で「コミュニケーションアプローチ」等、コミュニケーション中心の授業の手法を用いると、抵抗感を持つ受講者が多い。授業時の質問や授業に対する要望は、文法事項の詳しい説明を求めるものや、日本語訳を知りたい、確認したい、というものが圧倒的に多い。これらの点を考慮に入れると、授業で用いる教授法は従来から用いられる「文法訳読式」の手法が比較的受け入れられやすいという印象を受ける。学習者の学習動機と授業手法に関するこのようなアンバランスをどう解消するのかということが課題の一つである。

さらに、市民講座を開講する場合の教師側から見た注意点は受講者のレベルである。一般的に市民向けの講座には「初級（または中級）中国語」というようにレベル設定をした名称をつけ、受講者の募集が行われる。ただ、筆者の経験から言えば、実際開講して見ると、受講者のレベルにはかなりの不一致が見られる。アンケート調査によれば、中国語の回答者の学習歴には1年未満から10年以上まで様々であり、また、以前仕事で中国に数年滞在した経験があるが、ここ数年は全く中国語に触れていないといった受講者も見られる。また「学習環境（質7）」の調査結果について、「そう思う」「ややそう思う」の肯定的は約50%であり、自分のレベルに相応した講座を受講できると感じている受講者の割合は決して高いとは言えない。市民向けの講座においても大学の授業のようにレベルを細分した講座の開講が理想的であることは言うまでもない。しかし、それが難しい状況下で、どのように授業を展開するのかということは講座の担当者にとっての一つの課題である。最後に、英語と韓国語の二言語の調査結果との比較により、着目できる点を挙げる。全体的に、英・韓の二言語と差が顕著なのは、「学習環境」の項目に多い。例えば、（質1）に

ついて「あまりそう思わない」「そう思わない」の否定的な回答が、英語、韓国語、それぞれ「23%」「13%」であったが、一方、中国語は「47%」であり半数に近い。また、その他の学習環境に関する質問に対しても、否定的な回答の割合が英・韓の二言語より、中国語の方が高いものが多く見られた。このことから、下関地域においては一般市民にとっての中国語の学習環境が充分ではなく、より充実させる必要性があることが指摘できる。

3. 韓国語

下関市における市民の韓国語学習は、行政だけでなく、各大学や民間教育事業者、市民団体などによって、多様な学習機会が提供されている。しかし、より便利で効果的な韓国語学習を提供するためには市民が何を望み、何を期待しているのかを把握・支援していく必要があるが、多様な学習者のニーズと需要に、十分に応えられない状況も生じている。

例えば、「学習方法（質1）」アンケート調査の8割の回答者が現在市民向けの講座や民間の外国語学校に通って勉強していると答えたが、講座場所が旧市内に集中しているため、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町の住民は距離的に制約を受けていることが考えられる。また、「学習環境（質3）」アンケート調査の8割の人が市報から講座情報を得ていると答えたが、講座を受けたくても「どこで情報を入れれば良いのかわからない」といった年配の方を中心とした市民もいるであろう。東京都のように市民誰もが一目で分かるように、市内で開催されている講座案内（語学のみならず）を市のホームページに載せるなどの工夫が必要である。また、パソコンが上手く使えない年配の方のために、各公民館に講座案内の張り紙を貼って広報するなどの支援策も必要である。即ち、情報弱者、地理的なハンディキャップを抱えている市民のために、韓国語学習における情報環境を整備し、地理的・時間的制約を超え、出前講座など多様で豊富な学習機会を提供できるようにしないとけないと思う。

その他に、「会話中心の授業が欲しい」「中級以上のクラスが欲しい」「少人数のクラスが欲しい」「留学生及びネイティブとの交流を増やして欲しい」「途中で講師が変わらない方が良い」「市の図書館にはあまり韓国語関係の書籍がない」「向上心のある人のために週2回の講座が欲しい」「駐車場が充実して欲しい」といった市民の声（意見・提案）を受け付け、市民が満足できる語学講座を提供し、活かしていくべきである。

市民のための語学講座は、同じ目的を有する市民が集まって連帯感を作り上げ、韓国語学習への不安を取り除き、また仲間意識を高調させるなど良い効果が期待される。そこで、より効果的な教育を行うためには講師の役割も大きいはずである。韓国語学習に対する人々の意欲や興味・関心を高めるために、市内で韓国語教育に従事している講師を招いて、経験事例中心の意見交換会を通し、実際の授業に活用できる韓国語教育についての専門的な知識を伝授する「韓国語教育研究会」⁹⁾を開催するのは、情報交換の意味で効果的な方法だと思われる。

もちろん、各種の主体により多様な学習機会が豊富に提供されなければならないが、質

的に高度で体系的かつ継続的な学習機会の提供者・アドバイザーとして、大学等の高等教育機関が重要な役割を果たすことが期待される。地域に開かれた大学、地域とともに歩む大学として、大学の講義をより身近に市民に活用してもらうために、下関市民の学びの機会を積極的に提供することに取り組まなければならない。

市民の都合の良い時間に、近くで、しかも安い値段で、楽しく学習できる、韓国語だけではなく韓国文化及び韓国人についても学べる市民講座が増えることを期待する。

V おわりに

本研究は下関地域で行われている市民向けの外国語（英語・中国語・韓国語）学習環境および現状やニーズ、要望を調査し、改善点を指摘する目的で行ったものである。

市報の調査からは、言語によって講座・イベントの数や提供機関などにおいて違いがあることが分かった。また、市報に掲載されていない講座が多くあることも指摘できる。スペースに制限があるため、市報に掲載されている講座やイベントでも記載内容に不足が見られ、市民にとって講座内容が分かりやすいと決して断言できない。語学講座の情報源として市報に頼っている下関市民の立場からは、これは決して良い状況であるとは言えない。

上記のような問題点の改善策として、下関地域で開催される英・中・韓の語学学習や文化体験に関するすべての講座・イベントを細かく紹介するホームページが必要だと考えられる。下関地域の語学学習者の多くは高齢者で、インターネットを使いこなせない者がいることへの配慮として、公民館やその他の施設で張り紙を貼ることなど、対応策を検討する必要がある。本研究の今後の目的の一つは、語学講座に関する情報をどう整理し、どう市民に分かりやすく提示するかという点にある。

アンケートの調査からは、学習者の学習動機や今後の講座への要望は、三言語を通して学習者の年齢や職業などと深く関連しており、言語を問わず、現在の下関地域の学習環境に満足していない学習者がいることも確認できた。今後提供される講座のレベル設定や開講時間などの改善が求められる。

また、学習言語別に異なる特徴も見られ、それぞれの言語の学習者の要望やニーズに配慮した講座が必要であろう。アンケート結果を参考に、今後の市民講座の企画に役立てることが本研究の今後の目的の一つである。そして、より効果的な語学学習環境を整えるために、本研究の成果を下関地域全体の外国語学習を提供する機関で共有する必要がある。今後の研究では、調査対象を広げ、外国語講座を受講していない学習者の学習状況、学習環境など、より多くの市民からデータを得る必要がある。

語学を継続的に学習したい市民が多くいることや市民の学習ニーズが様々であるという点において、より充実した学習環境を提供するため下関地域の外国語学習サービスを提供する団体や機関の連携が望ましいと考えられる⁷⁾。その中で、行政、大学とその他の教育機関、民間団体、または講師の役割分担を考える必要がある。地域を挙げ、連携をとった

外国語教育その可能性について、今後検討したいと考えている。さらに、地域ボランティアや観光通訳の育成を期待し、下関地域に根ざした外国語講座、教材開発を今後の研究テーマの一つにしたい。

注及び引用文献

- 1) 本研究において対象とするのは、英語、中国語、韓国語の三つの外国語である。
- 2) 2008年1月号から2012年12月号までを調査の対象とした。市報の名称は以前の『かがやき』から2010年5月号『しものせき』に変更されている。
- 3) 2005年（平成17年）2月13日下関市、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町が合併し、新たに下関市が発足。
- 4) 「地区別の人口と世帯数」（住民基本台帳に基づき下関市総務課で集計したもの参照）、平成25年1月末現在数。
- 5) 韓流（ハンリゅう、かんりゅう、英: Korean wave）とは、2000年代以降の韓国大衆文化の流行を指す言葉である。
- 6) 関 昭典（2006）、動機づけ重視の英語学習モデルの構築とその効果の検証、新潟短期大学研究紀要43、p 129～141
- 7) 清水英男（2010）、「公民館における今日的課題と解決の方向性」、生涯学習研究（8）、を参照にした。
- 8) 『語学教育エキスポ2013予稿集』（p17～19）を参照した。
- 9) 呉香善（2010.7.10）、「韓国語教育の指導事例と課題」、韓国語教育研究会、山口県韓国教育院

[付記] 本研究を行なうにあたり、下関市役所国際課の方々には貴重なご意見とご協力を賜りました。また、アンケート調査に関して、多くの方々にご協力をいただきました。ここに、深く感謝の意を表します。